

9 様式第 2 号の 1 - ① 【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第 2 号の 1 - ②を用いること。

学校名	札幌大谷大学
設置者名	学校法人札幌大谷学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部共通科目	専門科目	合計		
芸術学部	音楽学科	夜・通信	13	-	-	13	13	
	美術学科	夜・通信			-	13	13	
社会学部	地域社会学科	夜・通信		-	-	13	13	

(備考) 1～3年生は新課程、4年生は旧課程について計上します。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

<ul style="list-style-type: none"> ・本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/syugakushien/haichi_daigaku_2021.pdf

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	札幌大谷大学
設置者名	学校法人札幌大谷学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

<p>・本学ホームページ 情報公開資料 その他 1. 理事（役員）名簿 https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/rijiyakuinmeibo_210407.pdf</p>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	現職 銀行監査役 前職 国立大学学長	2021年4月1日 から 2025年3月31日 まで	大学・短大における 運営諮問会議の担当 理事
非常勤	現職 一般企業の 代表取締役社長	2021年4月1日 から 2025年3月31日 まで	中学・高校における 運営諮問会議の担当 理事
(備考) 上記の他、非常勤で現職が一般企業の代表取締役社長で、任期は上記同様 2021年4月1日 から 2025年3月31日までとする財務担当理事がおります。			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	札幌大谷大学
設置者名	学校法人札幌大谷学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>(1)授業計画(シラバス)の作成過程 FD・SD委員会で、次年度開講科目の授業計画(シラバス)の作成について、授業計画(シラバス)の様式の見直しや、教員向け説明用資料等(※)を検討し、決定したものを教授会で報告する。 教授会で報告した後、各教員は次年度開講科目の授業計画(シラバス)の作成に取り組み、最終3月中旬を目標とする。</p> <p>(※)教員向け説明用資料等 ①シラバス作成のガイドライン シラバスの定義をはじめ、作成する意義、作成方法等を表記したガイドライン ②シラバス作成の留意事項 本学のシラバスの様式を基礎に、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間他、項目ごとに留意事項を表記した文書</p> <p>(2)授業計画(シラバス)の作成・公表時期 FD・SD委員会で、作成時期について12月までに検討し、翌年1月開催の教授会で報告する。 その後、授業科目担当教員は授業計画(シラバス)の作成に取り組む。 シラバス完成後は、全学生を対象にドライブにてシラバスを共有する。 本学ホームページは5月中を目途に公表する。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>・本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/department/syllabus/syllabus_university_2021.pdf</p>

2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)

(1)評価対象

各授業科目において次の全ての条件に満たない場合は、評価の対象とはなりません。

- ①履修登録期間内に履修登録の手続きを完了すること。
- ②定められた授業回数の3分の2以上、授業に出席すること。

(2)単位修得

評価対象となる授業科目は、授業科目担当教員が次の複数の方法から評価し、単位認定します。

- ①学期末試験（学期末の授業内試験及び定期試験並びに実技試験をいう）
- ②平常試験（授業科目担当教員が必要に応じて随時行う小テストや中間テスト等）
- ③レポートや作品等の課題提出
- ④学修状況他

(3)成績評価

授業科目の成績は、100点を満点とし、次のとおり、秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とします。

評価	評点	G P
秀	90点以上	4
優	80点以上90点未満	3
良	70点以上80点未満	2
可	60点以上70点未満	1
不可	60点未満	0（評価対象外の授業科目含む）

(4)成績についての異議申し立て

成績評価の透明性、厳格性を確保するため、学生（及び保証人）から成績評価に対する異議があった場合、その申し立てをすることができます。

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

(1)成績の評価

成績の評価は、上記2の(3)の各評価に加え、学修成績を総合的に判断する指標として、1単位あたりの評価平均値(Grade Point Average(以下「GPA」という。))を用いることとし、各学修の評価に対する授業科目の評点及び評価の数値(Grade Point(以下「GP」という。))は、上記2の(3)のとおりとする。

(2)GPAの算出方法は、次のとおりとする。

- ①対象となる授業科目は、履修登録の手続きをした全ての授業科目とする。
ただし、大学の教職課程科目他は、GPAの対象から除くものとする。
- ②((科目の単位数)×(GP))の総和÷履修科目の総単位数(不可・評価対象外の単位数を含む)で得た数値の小数点以下第3位は四捨五入する。

(3)札幌大谷大学の半期(1学期)GPAは、次のとおり学修指導及び退学勧告並びにその他の基準において用いる。

- ①GPAが1.0未満の学生に対しては、担任教員又は学修支援センターが個人面談により学修指導を行う。
- ②GPA1.0未満が2期連続または、通算3回になった学生に対しては、再度担任教員又は学科の学修支援センターが個人面談を通して学修指導をし、面談及び指導記録を保証人(保護者)に通知する。
- ③GPA1.0未満が3期連続又は通算4回1.0になった学生に対しては、学部長又は学科長が個人面談を通して学修指導をし、面談及び指導記録を保証人(保護者)に通知する。
- ④前号に該当する学生が、当該学修指導以降も学修の改善が認められない場合は、学修支援センター会議の議を経て退学勧告を行う。

(4)本学の半期(1学期)GPAは、教員間もしくは各授業科目間の成績評価基準の平準化のための参考指標等に用いる。

(5)通算(累計)GPAは、次の表のとおり3.0以上の学生に対しては、学部学科及び学年別に定められた履修登録の年間上限単位数に単位を追加することができる。
なお、年間上限単位数の追加は、2年生以上とし、年度末に確認する。

通算(累計)GPA	次年度追加単位数
3.5以上	8単位
3.0以上3.5未満	4単位

客観的な指標の算出方法の公表方法

- ・本学ホームページ
https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/univ_risyuukitei.pdf
「札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部履修等規程」

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

(1)卒業の認定に関する方針の具体的な内容

[芸術学部音楽学科]

- ①主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。(自律性)
- ②音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。(課題発見・社会貢献性)
- ③音楽による相互交流をとおして、個性を發揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。(協調性)
- ④コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
- ⑤正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

[芸術学部美術学科]

- ①主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。(自律性)
- ②現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。(課題発見・社会貢献性)
- ③西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。(協調性)
- ④コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
- ⑤4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

[社会学部地域社会学科]

- ①主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)
- ②フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)
- ③地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。(協調性)
- ④コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)
- ⑤社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なものの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)

(2)卒業の認定に関する方針の適切な実施状況

卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している。

なお、卒業に必要な単位数は、124単位以上修得しなければならないが、そのうえで学科ごとに必要な要件は下記の通りとなる。

[芸術学部音楽学科]

- ①必修科目の大学共通科目は、4単位全て修得しなければならない。
- ②必修科目の芸術学部共通科目は、2単位全て修得しなければならない。
- ③必修科目の専門科目は、10単位全て修得しなければならない。
- ④必修科目の専攻科目は、音楽療法コース以外の各コースは28単位、音楽療法コースは30単位全て修得しなければならない。

⑤選択科目の大学共通科目（情報リテラシー科目、日本語表現科目、キャリア科目、北海道科目、教養科目、外国語科目）及び芸術学部共通科目（オペラ・映像・舞台科目）は、その中から20単位以上を修得しなければならない。

さらに、大学共通科目のうち外国語科目は、その中から6単位以上を修得しなければならない。ただし、英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語のうち二ヶ国語以上履修することが望ましい。

⑥選択科目の専門科目は、その中から20単位以上を修得しなければならない。

[芸術学部美術学科]

①必修科目の大学共通科目は、4単位全て修得しなければならない。

②必修科目の芸術学部共通科目は、2単位全て修得しなければならない。

③必修科目の専門科目は、8単位全て修得しなければならない。

④必修科目の専攻科目は、44単位全て修得しなければならない。

⑤選択科目の大学共通科目（情報リテラシー科目、日本語表現科目、キャリア科目、北海道科目、教養科目、外国語科目）及び芸術学部共通科目（オペラ・映像・舞台科目）は、その中から20単位以上を修得しなければならない。

さらに、大学共通科目のうち外国語科目は、その中から6単位以上を修得しなければならない。ただし、英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語のうち二ヶ国語以上履修することが望ましい。

⑥選択科目の専門科目は、その中から20単位以上を修得しなければならない。

[社会学部地域社会学科]

①必修科目の大学共通科目は、4単位全て修得しなければならない。

②必修科目の専門科目は、28単位全て修得しなければならない。

③必修科目の専攻科目は、20単位全て修得しなければならない。

④選択科目の大学共通科目（情報リテラシー科目、日本語表現科目、キャリア科目、北海道科目、教養科目、外国語科目）は、その中から20単位以上を修得しなければならない。さらに、大学共通科目のうち外国語科目は、その中から6単位以上を修得しなければならない。ただし、「英語演習Ⅰ」及び「英語演習Ⅱ」は、必ず修得しなければならない。

⑤選択科目の専門科目は、その中から20単位以上を修得しなければならない。

また、卒業及び修了判定は、教授会において担当委員会及び学部学科の意見を聞いたうえで、学長が卒業及び修了を認定する。なお、判定の手順として次の会議の順番で事前審議することとする。

①所属学科の教員による学科会議

②学修支援センター会議

③大学協議会

卒業の認定に関する
方針の公表方法

・ 本学ホームページ
芸術学部音楽学科
<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/music/general/>
芸術学部美術学科
<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/art/general/>
社会学部地域社会学科
<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/society/general/>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	札幌大谷大学
設置者名	学校法人札幌大谷学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	・ 本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/2021/zaimu_shiryou_2021_02.pdf
収支計算書又は損益計算書	・ 本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/2021/zaimu_shiryou_2021_03.pdf
財産目録	・ 本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/2021/zaimu_shiryou_2021_01.pdf
事業報告書	・ 本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/2021/zaimu_shiryou_2021_07.pdf
監事による監査報告(書)	・ 本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/2021/zaimu_shiryou_2021_08.pdf

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	
中長期計画(名称:)	対象年度:)
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法： ・ 本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/about/general/evaluation/ 札幌大谷大学 2020 年度 自己点検評価書 [日本高等教育評価機構]

(2) 認証評価の結果（任意記載事項）

公表方法： ・ 本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/about/general/evaluation/ 札幌大谷大学 2017 年度 大学機関別認証評価 自己点検評価書 札幌大谷大学 2017 年度 大学機関別認証評価 評価報告書 [日本高等教育評価機構]
--

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 芸術学部
教育研究上の目的（公表方法） ・ 本学ホームページ 芸術学部音楽学科 https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/music/general/ 芸術学部美術学科 https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/art/general/
(概要) 〔芸術学部音楽学科〕 1. 西洋音楽に関わる演奏・創作・教育・研究の多様な分野において、北海道ひいては我が国の音楽文化の発展を担う人材を育成する。 2. 演奏技能教育のみならず専門教養教育を重視し、音楽文化の普遍的価値に対する深い造詣をもった音楽家、教育者、研究者を育成する。 〔芸術学部美術学科〕 1. 美術やデザインに関わる創作・教育・研究の各領域における多様な分野において、北海道ひいては我が国の芸術、文化の発展に寄与貢献する人材を育成する。 2. 技術のみならず知識や教養を重視し、芸術・文化の普遍的価値に対する深い造詣をもった美術家、デザイナー、教育者、研究者らを育成する。
卒業の認定に関する方針（公表方法） ・ 本学ホームページ 芸術学部音楽学科 https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/music/general/ 芸術学部美術学科 https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/art/general/
(概要) 〔芸術学部音楽学科〕 ①主体的に生きがいや課題を見出し、将来的な目標に向けて、持続的に自己研鑽を積み重ねていくことができます。（自律性）

- ②音楽を通じて自己を表現しながら、さまざまな人々と感性的交流の場を創出し、音楽の力によって社会における課題解決に取り組むことができます。（課題発見・社会貢献性）
- ③音楽による相互交流をとおして、個性を発揮しながら、他者の個性も理解し尊重する姿勢をもち、共に努力することができます。（協調性）
- ④コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
- ⑤正統的な演奏技法および専門知識の修得に加え、音楽の実践や研究によって培われた豊かな感性を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

〔芸術学部美術学科〕

- ①主体的に自己表現を具現化し、技術向上のため継続的に自己研鑽を積み重ねることができます。（自律性）
- ②現代社会の多様な問題について考察し、美術を通じ問題解決を図ることができます。（課題発見・社会貢献性）
- ③西洋および日本の芸術・文化や伝統の普遍的価値を理解し、異なる価値観や個性を受容し、他者を尊重し協力し合うことができます。（協調性）
- ④コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。（基礎的汎用的スキル）
- ⑤4年間で修得した専門的な知識やスキルを、実社会のニーズに応じて活用することができます。（知識活用）

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法）

・本学ホームページ

芸術学部音楽学科

<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/music/general/>

芸術学部美術学科

<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/art/general/>

（概要）

〔芸術学部音楽学科〕

- ①建学の精神を学び、自己と他者の命を尊重し、豊かな情操を身につけ、知徳の陶冶を図ります。
- ②社会に対する広い視野を持ち、多様な価値観に配慮できる豊かな人間性を身につけるために全学共通科目を配置します。特に、伝える力を中核とするコミュニケーション能力の育成のため、全学共通の初年次教育科目を配置します。また、自らの専門領域を深く学ぶと同時に、様々な領域への理解を深めるために、副専攻制度を配置します。さらに社会人として生き抜く実践力を育成するために、キャリア支援科目を配置します。
- ③1年次は音楽家としての基礎教養と基礎能力の定着を図るとともに、社会人としての基礎的な能力育成のために初年次教育科目や大学共通科目を配置します。また、芸術の基礎的な態度を養うために学部共通科目を配置します。
- ④2年次は基礎的な技能の充実を図るとともに、より高度な音楽理論、音楽史、音楽文化に対する知識を深める科目を設置します。これらを通じて、社会に生きる音楽家としての自覚を促します。
- ⑤3年次は、基礎能力の充実と応用を図ることをねらいとします。1、2年次に養われた基礎技能や知識教養を活かし、芸術的表現力や感性を豊かなものとします。また、より専門性の高い芸術的教養を深めることで、専門的技能と経験をより広い芸術的文脈で理解させ、演奏家、研究者、教育家などの自己像を形成します。
- ⑥4年次は、それぞれの専門分野に応じた卒業研究を通じて、自己の課題を発見・解決し、学修成果を統合します。そして、自立した自己像を確立し、ディプロマ・ポリシーに沿った社会に向けて自己を発信する実践力を養います。
- ⑦正統的な演奏技術の教授や実践的なスキルの育成を実現させるために、専門的な領域

においては個人レッスンまたは、少人数制の教育を基本とします。また、授業及び授業外において、学生の就学のための支援を行います。

- ⑧学生の技術の進捗や資質に応じて課題を設定します。授業以外の活動として、各種演奏会、インターンシップやボランティア活動などに参加する機会を通じて、大学での学修内容と実社会とのつながりを認識できる機会を提供します。

〔芸術学部美術学科〕

- ①建学の精神を学び、自己と他者の命を尊重し、豊かな情操を身につけ、知徳の陶冶を図ります。
- ②社会に対する広い視野を持ち、多様な価値観に配慮できる豊かな人間性を身につけるために全学共通科目を配置します。特に、伝える力を中核とするコミュニケーション能力の育成のため、全学共通の初年次教育科目を配置します。また、自らの専門領域を深く学ぶと同時に、様々な領域への理解を深めるために、副専攻制度を配置します。さらに社会人として生き抜く実践力を育成するために、キャリア支援科目を配置します。
- ③1年次は美術のみならず社会に対する視野を広げ、芸術文化の諸分野において共有される創造性の基盤となる態度を身につけるため大学共通科目を配置し、また芸術の基礎的な態度を養うために学部共通科目を配置します。
- ④2年次は社会的文脈の中で美術・デザインへの知識を深めます。多様な造形・メディア表現の基礎的技術を身につけ、美術・デザインの基礎教養と基礎能力の定着を図るため、芸術学部美術学科専門科目を配置します。
- ⑤3年次は、これまで修得した知識と技術を統合させながら、美術家、デザイナー、クリエイター、研究者、教育者などの自己像の形成を図り、かつ職業人として必要なコミュニケーション能力を身につけるため、芸術学部美術学科専攻科目を配置します。
- ⑥4年次の卒業制作では、自己のテーマに向き合い、問題を発見・解決をしながら、独創的かつ柔軟に取り組める実践力を身につけることを最終目標とし、ディプロマ・ポリシーに沿った社会に求められる素養を身につけます。
- ⑦美術の専門的知識の修得に加え、実践的なスキルを育成するために、少人数制を基本とし、コミュニケーションを重視しながら授業及び授業外において、専門的な修学のための支援を行います。
- ⑧学生の技術の進捗や資質に応じて課題を設定し、学生個別に一貫した指導を行います。授業以外の活動として、展覧会への出品やインターンシップ、ボランティア活動など、大学での学修内容と実社会とのつながりを認識する機会を提供します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法）

・本学ホームページ

芸術学部音楽学科

<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/music/general/>

芸術学部美術学科

<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/art/general/>

（概要）

〔芸術学部音楽学科〕

1. 大学教育を通じて発展・向上させる能力

芸術学部音楽学科では、北海道における4年制の高等教育研究機関として、創作・教育・研究・応用に関わる幅広い学びの分野を設け、将来は、音楽を通して幅広く社会貢献できる人材の育成をめざしています。

そのために本学科では、西洋音楽の伝統を通して培われた専門的な技術と知識を修得するとともに、さまざまな合奏・アンサンブル・集団セッションや美術学科との共同制作を通して、創造的なコミュニケーション能力と協働性を発展させます。

さらに、これらの知識と技術が生きた経験に結びつくように、外部での発表や実習の機会を通して専門的な能力を活用し、さまざまなニーズに応じて社会に貢献できる能力を向上させます。

2. 入学者に求める能力

[知識・技能]

レベルの高低やジャンルの別を問わず、音楽活動に必要な基礎的な知識と技術を有していること。

音楽を通じた社会貢献の意義を理解するために、高等学校での幅広い学習内容を習得していること。

[思考力・判断力・表現力]

現代の社会や文化のなかで音楽が果たすべき役割や意義について関心をもち、自分自身が果たすことのできる課題を考え、演奏・創作・発表等の方法で表現できること。

[主体性・多様性・協働性]

合奏・合唱等の音楽の団体活動やボランティア活動の経験を有し、多様な価値観や視点をもつ人々との協働による音楽活動の意義を理解し、積極的に参加する意欲を有していること。

[芸術学部美術学科]

1. 大学教育を通じて発展・向上させる能力

芸術学部美術学科では、ファインアートやデザイン・メディア表現に関わる創作・教育・研究の各領域における分野において、北海道ひいては我が国の芸術・文化に寄与貢献できる人材の育成をめざしています。

本学科ではとりわけ美術の専門教育を通し、手仕事の確かさを尊重し、作品が完成に至るまでの忍耐力や技術を磨き、表現の礎を築きます。デザイン・メディア系列の授業では時代趨勢に敏感であり、独自の美意識とオリジナリティを発展、向上させていく能力を養います。

また、他学科との共同制作を通し、公共性と協調性を持ちながら課題を解決していく能力など、卒業後の社会で求められるさまざまな状況に対応できる才能を育みます。

2. 入学者に求める能力

[知識・技能]

創造性豊かな芸術活動や社会貢献を果たすための要素として、高等学校での幅広い学習内容を習得していること。

国内外の芸術や文化に関する知識や関心があり、同時に美術のみならず、現代社会に目を向ける幅広い視野を有していること。

[思考力・判断力・表現力]

たゆまなく変化し続ける美術やデザインの役割について考え、適宜判断し、その中で自身が果たすべき役目を考え、的確に表現できること。

[主体性・多様性・協働性]

異なった文化に寛容で、さまざまな価値観・時代感覚を受け入れる柔軟な感性を有していること。

他者とのコミュニケーションを尊び、公共性と協調性を持ちながら課題を解決していくことができること。

学部等名 社会学部

教育研究上の目的 (公表方法)

・ 本学ホームページ

<https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/society/general/>

(概要)

1. 地域社会の内発的な発展を担う人材を育成する。
2. 民間部門及び公共部門において、地域発展の中核を担うための行動力と実践力を備えた人材を育成する。
3. 「地域を愛し、地域を学び、地域を支える」という意識を基本に、キャリア教育を内包した実践的な教育を行う。

卒業の認定に関する方針 (公表方法)

<p>・本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/society/general/</p>
<p>(概要)</p> <p>〔社会学部地域社会学科〕</p> <p>①主体的に地域社会における課題を見出し、その解決に向け、持続的に努力を重ねることができます。(自律性)</p> <p>②フィールドワークや社会調査を通じて地域社会の課題を発見し、課題解決に向けて積極的に貢献することができます。(課題発見・社会貢献性)</p> <p>③地域社会の企業・施設・行政機関での社会体験・職場体験をとおして、働くことの意義への理解を深めつつ、社会性をもって協働することができます。(協調性)</p> <p>④コミュニケーション能力や課題解決能力など、卒業後の社会で求められる汎用的なスキルを身につけ、ニーズに応じて活用することができます。(基礎的汎用的スキル)</p> <p>⑤社会人として必要な基礎力(コミュニケーションスキル、複眼的なもの見方など)を基盤とし、社会学のさまざまな分野(地域・公共・福祉・家族・観光・メディアなど)における専門的知識を、現実社会のニーズに応じて活用することができます。(知識活用)</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針(公表方法)</p> <p>・本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/society/general/</p>
<p>(概要)</p> <p>〔社会学部地域社会学科〕</p> <p>①建学の精神を学び、自己と他者の命を尊重し、豊かな情操を身につけ、知徳の陶冶を図ります。</p> <p>②社会に対する広い視野を持ち、多様な価値観に配慮できる豊かな人間性を身につけるために全学共通科目を配置します。特に、伝える力を中核とするコミュニケーション能力の育成のため、全学共通の初年次教育科目を配置します。また、自らの専門領域を深く学ぶと同時に、様々な領域への理解を深めるために、副専攻制度を配置します。さらに社会人として生き抜く実践力を育成するために、キャリア支援科目を配置します。</p> <p>③社会人として求められるコミュニケーション能力や課題解決能力を育成するため、言語表現及び情報処理関連科目を配置します。</p> <p>④北海道に根づく職業人として欠かせない、国際性や地域性の視点を育成するため、北海道並びに国際社会への理解を深める科目を配置します。</p> <p>⑤現代社会の仕組みを理解する力を育成するため、社会の成り立ちや人間関係について学ぶ科目を配置します。</p> <p>⑥地域社会や現代社会の現状を多角的に捉えて課題解決を図る姿勢を体系的に育成するため、マネジメント・行政・福祉・まちづくりに関する科目群をそれぞれ配置します。</p> <p>⑦地域社会の課題を発見したり分析したりする力を育成するため、社会調査スキルを体系的に修得する科目群を配置します。</p> <p>⑧様々な人々と協働していく社会性を育成するため、演習、フィールドワーク、インターンシップ等の体験型科目群を配置します。</p> <p>⑨4年間を通じて授業内外での学生の修学を支援するため、担任制度と連動したゼミ科目(基礎演習、専門演習)を配置します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針(公表方法)</p> <p>・本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/department/society/general/</p>
<p>(概要)</p> <p>〔社会学部地域社会学科〕</p> <p>1. 大学教育を通じて発展・向上させる能力</p> <p>社会学部地域社会学科では、地域社会の内発的な発展を担う人材を育成することをめざしています。そのために、本学科では、社会学の諸分野における専門的知識を修得</p>

するとともに、地域社会への参加および調査を中心とした学びを通じて、主体的に課題を発見していく能力、課題解決に向けて貢献する姿勢、多様な人びとと協働して目的達成に取り組むマネジメント能力などの能力や資質を発展・向上させます。また、人間関係や社会のしくみへの洞察力、専門的知識をニーズに応じて活用していける応用力、コミュニケーション能力や社会性など、卒業後の社会で求められる汎用的な能力を向上させます。

2. 入学者に求める能力

[知識・技能]
 高等学校での幅広い学習内容を習得し、一定レベルの基礎的な知識と技能を備えていること。
 特に、日本語による基本的な文章を作成する技能を身につけていること。

[思考力・判断力・表現力]
 高等学校での学習を通して、科学的、論理的な思考力の基礎を身につけていること。
 社会への参加や調査の成果を共有する上での、一定レベルの言語表現能力を備えていること。

[主体性・多様性・協働性]
 地域社会の課題解決や地域社会への貢献に向けた積極的な態度を備え、地域社会について継続して学ぼうとする強い意志を持っていること。
 多様な視点や価値観を受け入れ、多様な人びとと協働していこうとする姿勢を備えていること。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：
 ・本学ホームページ 情報公開資料
 2021 年度教育研究上の基礎的な情報及び修学上の情報等に係る情報公開資料の
 1. 学部・学科ごとの名称及び教育研究上の目的
https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/kyoiku_shiryou_2018_01.pdf
 及び
 2021 年度教育研究上の基礎的な情報及び修学上の情報等に係る情報公開資料の
 2. 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報
 (2) 教員組織及び職階別専任教員数
https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/2020/kyoiku_shiryou_2021_02_02.pdf

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	2 人	—					2 人
芸術学部	—	15 人	10 人	2 人	0 人	0 人	27 人
社会学部	—	10 人	1 人	2 人	1 人	0 人	14 人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0 人		199 人					199 人
各教員の有する学位及び業績		公表方法：					

(教員データベース等)	<p>・本学ホームページ 情報公開資料</p> <p>「2021年度教育研究上の基礎的な情報及び修学上の情報等に係る情報公開資料、2 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報の(1)専任教員 学歴及び保有学位等一覧」参照</p> <p>https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/2020/kyoiku_shiryou_2021_02_01.pdf</p>
-------------	---

c. FD (ファカルティ・ディベロップメント) の状況 (任意記載事項)

FD・SD活動について積極的に取り組んでいる。特に研修活動に力を入れているが、2020年度のFD・SD活動については年度前からの計画を変更して「コロナ禍のオンライン授業を振り返って：第3波に備えて何ができるか(前編)」「コロナ禍におけるオンライン授業を振り返って(後編)」「コロナ禍のオンライン授業を振り返って：第3波に備えて何ができるか(対策編)」「教職員のメンタルヘルス」をテーマに実施した。また、今年度もFD・SD活動を予定している。

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
芸術学部	120人	127人	105.8%	540人	491人	90.9%	若干名	1人
社会学部	70人	54人	77.1%	280人	216人	77.1%	若干名	0人
合計	190人	181人	95.3%	820人	707人	86.2%	人	1人

(備考) 2020年度より入学定員及び収容定員変更
2020年度より 芸術学部 入学定員 120人 収容定員 480人
社会学部 入学定員 70人 収容定員 280人
2019年度まで 芸術学部 入学定員 150人 収容定員 600人
社会学部 入学定員 70人 収容定員 280人

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
芸術学部	99人 (100%)	4人 (4.0%)	73人 (73.7%)	22人 (22.2%)
社会学部	56人 (100%)	0人 (0%)	52人 (92.9%)	4人 (7.1%)
合計	155人 (100%)	4人 (2.6%)	125人 (80.6%)	26人 (16.8%)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他

芸術学部	113人 (100%)	94人 (83.2%)	7人 (6.2%)	11人 (9.7%)	1人 (0.9%)
社会学部	59人 (100%)	53人 (89.8%)	2人 (3.4%)	3人 (5.1%)	1人 (1.7%)
合計	172人 (100%)	147人 (85.5%)	9人 (5.2%)	14人 (8.1%)	2人 (1.2%)
(備考) その他は除籍2名。					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>1)授業計画(シラバス)の作成過程 FD・SD委員会で、次年度開講科目の授業計画(シラバス)の作成について、授業計画(シラバス)の様式の見直しや、教員向け説明用資料等(※)を検討し、決定したものを教授会で報告する。 教授会で報告した後、各教員は次年度開講科目の授業計画(シラバス)の作成に取り組み、最終3月中旬を目標とする。</p> <p>(※)教員向け説明用資料等</p> <p>①シラバス作成のガイドライン シラバスの定義をはじめ、作成する意義、作成方法等を表記したガイドライン</p> <p>②シラバス作成の留意事項 本学のシラバスの様式を基礎に、授業概要、到達目標、授業計画、成績評価方法・基準、予習・復習の具体的な内容とそれに必要な時間他、項目ごとに留意事項を表記した文書</p> <p>2)授業計画(シラバス)の作成・公表時期 FD・SD委員会で、作成時期について12月までに検討し、翌年1月開催の教授会で報告する。 その後、授業科目担当教員は授業計画(シラバス)の作成に取り組む。 シラバス完成後は、全学生を対象にドライブにてシラバスを共有する。 本学ホームページは5月中を目途に公表する。 以上、様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の該当部分の記載を再掲する。</p>

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>1. 学修の成果に係る評価 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>(1)評価対象 各授業科目において次の全ての条件に満たない場合は、評価の対象とはなりません。 ①履修登録期間内に履修登録の手続きを完了すること。 ②定められた授業回数の3分の2以上、授業に出席すること。</p> <p>(2)単位修得 評価対象となる授業科目は、授業科目担当教員が次の複数の方法から評価し、単位認定します。 ①学期末試験(学期末の授業内試験及び定期試験並びに実技試験をいう) ②平常試験(授業科目担当教員が必要に応じて随時行う小テストや中間テスト等) ③レポートや作品等の課題提出 ④学修状況他</p> <p>(3)成績評価</p>
--

授業科目の成績は、100点を満点とし、次のとおり、秀、優、良、可、不可をもって表し、可以上を合格とします。

評価	評点	G P
秀	90点以上	4
優	80点以上90点未満	3
良	70点以上80点未満	2
可	60点以上70点未満	1
不可	60点未満	0 (評価対象外の授業科目含む)

(4)成績についての異議申し立て

成績評価の透明性、厳格性を確保するため、学生（及び保証人）から成績評価に対する異議があった場合、その申し立てをすることができます。

2. 卒業又は修了の認定に当たっての基準

(卒業の認定に関する方針の適切な実施状況)

卒業の認定に関する方針や学生の修得単位数等を踏まえ、卒業を認定している。

なお、卒業に必要な単位数は、124 単位となり学科ごとの要件は下記の通りとなる。

[芸術学部音楽学科]

- ①必修科目の大学共通科目は、4 単位全て修得しなければならない。
- ②必修科目の芸術学部共通科目は、2 単位全て修得しなければならない。
- ③必修科目の専門科目は、10 単位全て修得しなければならない。
- ④必修科目の専攻科目は、音楽療法コース以外の各コースは 28 単位、音楽療法コースは 30 単位全て修得しなければならない。
- ⑤選択科目の大学共通科目（情報リテラシー科目、日本語表現科目、キャリア科目、北海道科目、教養科目、外国語科目）及び芸術学部共通科目（オペラ・映像・舞台科目）は、その中から 20 単位以上を修得しなければならない。
さらに、大学共通科目のうち外国語科目は、その中から 6 単位以上を修得しなければならない。ただし、英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語のうち二ヶ国語以上履修することが望ましい。
- ⑥選択科目の専門科目は、その中から 20 単位以上を修得しなければならない。

[芸術学部美術学科]

- ①必修科目の大学共通科目は、4 単位全て修得しなければならない。
- ②必修科目の芸術学部共通科目は、2 単位全て修得しなければならない。
- ③必修科目の専門科目は、8 単位全て修得しなければならない。
- ④必修科目の専攻科目は、44 単位全て修得しなければならない。
- ⑤選択科目の大学共通科目（情報リテラシー科目、日本語表現科目、キャリア科目、北海道科目、教養科目、外国語科目）及び芸術学部共通科目（オペラ・映像・舞台科目）は、その中から 20 単位以上を修得しなければならない。
さらに、大学共通科目のうち外国語科目は、その中から 6 単位以上を修得しなければならない。ただし、英語、イタリア語、ドイツ語、フランス語のうち二ヶ国語以上履修することが望ましい。
- ⑥選択科目の専門科目は、その中から 20 単位以上を修得しなければならない。

[社会学部地域社会学科]

- ①必修科目の大学共通科目は、4 単位全て修得しなければならない。
- ②必修科目の専門科目は、28 単位全て修得しなければならない。
- ③必修科目の専攻科目は、20 単位全て修得しなければならない。
- ④選択科目の大学共通科目（情報リテラシー科目、日本語表現科目、キャリア科目、北海道科目、教養科目、外国語科目）は、その中から 20 単位以上を修得しなければならない。

さらに、大学共通科目のうち外国語科目は、その中から6単位以上を修得しなければならない。ただし、「英語演習Ⅰ」及び「英語演習Ⅱ」は、必ず修得しなければならない。

⑤選択科目の専門科目は、その中から20単位以上を修得しなければならない。

また、卒業及び修了判定は、教授会において担当委員会及び学部学科の意見を聞いたうえで、学長が卒業及び修了を認定する。なお、判定の手順として次の会議の順番で事前審議することとする。

①所属学科の教員による学科会議
 ②学修支援センター会議
 ③大学協議会

以上、様式第2号の3【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】の該当部分の記載

学部名	学科名	卒業に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
芸術学部	音楽学科	124 単位	有・無	49 単位
	美術学科	124 単位	有・無	49 単位
社会学部	地域社会学科	124 単位	有・無	49 単位
GPAの活用状況 (任意記載事項)		公表方法 ・本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/univ_risyukitei.pdf 「札幌大谷大学・札幌大谷大学短期大学部履修等規程」		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法 ・本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/wp/wp-content/themes/sapporo-otani/images/about/general/publicinfo/2020/ir_gakusyu_2010_01.pdf 情報公開資料「2020年度IR情報の状況、1 学修行動調査」 参照		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：
 ・本学ホームページ「校舎案内・周辺環境」
<https://www.sapporo-otani.ac.jp/campuslife/access/>
 及び
 ・本学ホームページ「施設紹介」
<https://www.sapporo-otani.ac.jp/about/facilities/>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考(任意記載事項)
芸術学部	音楽学科1年	1,200,000円	200,000円	353,960円	その他は、教育充実費、同窓会費を除く委託諸費、教職課程等履修費
	音楽学科2年	1,200,000円	円	347,500円	その他は、教育充実費、委託諸費、教職課程等履修費
	音楽学科3年	1,200,000円	円	345,000円	その他は、教育充実費、委託諸費、教職課程等履修費
	音楽学科4年	1,200,000円	円	307,500円	その他は、教育充実費、同窓会費を除く委託諸費
	美術学科1年	900,000円	200,000円	353,960円	その他は、教育充実費、同窓会費を除く委託諸費、教職課程等履修費
	美術学科2年	900,000円	円	347,500円	その他は、教育充実費、委託諸費、教職課程等履修費
	美術学科3年	900,000円	円	345,000円	その他は、教育充実費、委託諸費、教職課程等履修費
	美術学科4年	900,000円	円	307,500円	その他は、教育充実費、同窓会費を除く委託諸費
社会学部	地域社会学科1年	700,000円	200,000円	303,960円	その他は、教育充実費、同窓会費を除く委託諸費、教職課程等履修費
	地域社会学科2年	700,000円	円	297,500円	その他は、教育充実費、委託諸費、教職課程等履修費
	地域社会学科3年	700,000円	円	295,000円	その他は、教育充実費、委託諸費、教職課程等履修費
	地域社会学科4年	700,000円	円	257,500円	その他は、教育充実費、同窓会費を除く委託諸費

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生への学修支援及び授業支援は、学修支援センターをはじめ、クラス担任やゼミナール担任、さらに芸術学部ではコース主任が、学生の情報を共有し連携しながら行っている。また、学修支援センターは職員も構成員となっており、学生についての情報共有等、教員と職員が協働で運営している。</p> <p>新入生への学修支援として、入学式前後に職員が事前オリエンテーションで簡単な説明をし、各学部学科に分かれてオリエンテーションを実施している。</p> <p>芸術学部では、学修支援センターやコース主任から各コースの教育課程の特徴、演習及び実技等の授業形態についてコース別領域別に説明を行うとともに、大学での学び方として授</p>

<p>業時間と時間割、単位、履修計画、ノートやレポートの作成等の説明をしている。</p> <p>社会学部も、芸術学部同様の説明を行うが、さらにオリエンテーション終了後の通常授業期間に、全学年を通した少人数ゼミナール担任制度のもと実施される必修科目「基礎演習 I」、「基礎演習 II」の中で読解力、要約力、レジュメやレポートの作成方法・発表方法等の基本的な学修スキルを指導している。</p> <p>さらに、2019年度からは、芸術学部音楽学科、芸術学部美術学科、社会学部地域社会学科、短期大学部保育科の4学科合同での「初年次教育」を開始した。これは、4学科の新入生全員を対象とし、各学科混成の6人程度のグループで、「保育領域授業」、「音楽領域授業」、「美術領域授業」を各一つずつと「社会領域授業」4つの計7つのローテーション授業を受講するもので、大学での基礎的な学修スキルを指導している。</p> <p>在学生への年度初めの学修支援及び授業支援として4月のオリエンテーション時には、職員が前年度の成績通知書の配付、履修登録の説明をし、学修支援センターやクラス担任等が学生便覧等を用いて卒業要件、免許・資格取得要件、必修・選択科目の配分、選択科目の選択方法について説明を行う。特に免許・資格取得要件（教職・音楽療法）については、学修支援センターが詳細に説明する。</p>
<p>b. 進路選択に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>キャリア支援センターが中心となって、学生一人ひとりの特性を活かした進路、キャリア形成支援を行っている。ガイダンスや各種セミナーを中心とした全体支援の他、履歴書の添削や、模擬面接の実施、個別相談等個別の支援を強化している。</p>
<p>c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組</p> <p>(概要)</p> <p>学生の心身の健康管理については主に学生支援委員会が主として行っており、学務課がその事務を担っている。健康で有意義な学生生活を送るために保健室、学生相談室を設置し、学生を支援している。また、学校保健安全法に基づき、全学年に定期健康診断を実施し、学生の健康状況の把握に努めている。さらに全学年にUPI検査を実施し、心の健康面でも早期把握に努めている。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本学ホームページ https://www.sapporo-otani.ac.jp/about/general/publicinfo_research <p>情報公開資料「2021年度教育研究上の基礎的な情報及び修学上の情報等に係る情報公開資料、2 教員組織及び教員数並びに教員の保有学位、業績に関する情報の(4)主な教育・研究・社会活動」参照</p>
